

教員プロフィール

	<p>食物栄養科 教授</p> <p>羽 畑 祐 吾 (はばた ゆうご)</p> <p>Habata Yugo</p>
所属	食物栄養科
学位	博士 (理学) (筑波大学)
資格・免許	
学歴・職歴	<p>[学歴]</p> <p>1986.03 筑波大学第二学群生物学類 卒業</p> <p>1992.03 筑波大学大学院博士課程生物科学研究科 修了</p> <p>[職歴]</p> <p>1992.04-2014.03 武田薬品工業株式会社</p> <p style="padding-left: 20px;">1992.04-1997.03 新規配属・研究所員</p> <p style="padding-left: 20px;">1997.04-2008.09 主任研究員</p> <p style="padding-left: 20px;">2008.10-2014.03 主席研究員</p> <p>2014.06-2014.10 株式会社 加速器分析研究所</p> <p>2015.02-2016.01 株式会社 Clio</p> <p>2016.04-現在 山梨学院短期大学食物栄養科 科長・教授</p>
担当科目	<p>「栄養生理学」「栄養生理学実験」</p> <p>「栄養と統計」</p> <p>「フード・サイエンスと健康」</p> <p>「情報処理演習Ⅱ」</p> <p>「栄養士特講Ⅱ」</p>
専門分野	<p>生物学・生化学・分子生物学・創薬科学</p> <p>新規生理活性物質の探索・食物成分の生理学</p>
現在の研究テーマ	「牛乳中の体脂肪蓄積抑制の天然因子アペリンの研究」
競争的資金等の研究課題	<p>「牛乳中の体脂肪蓄積抑制の天然因子アペリンの研究」</p> <p>(学術振興会科学研究費 2018-20年度 基盤研究(C) 課題番号 18K11091)</p>
所属学会	<p>日本味と匂い学会</p> <p>山梨県食品技術研究会</p>
メッセージ	<p>「昔の仕事が今の自分を助ける」</p> <p>何事にも真剣に取り組んでください。すぐには評価されないかもしれないことだったとしても、その時の損得だけで判断しないでください。経験したことないことへの挑戦は、どんな小さなことでも「気付き」を与えてくれます。小さくても、いくつものそれらが積み重なって、将来のあなたを作っていくはずです。そして、あなたの周りには、あなたのこれまで為してきたことすべてをみています。</p>

教育	
2020年4月～2021年3月	
教育方針	<p>人々の健康や幸福を支える「食のプロフェッショナル」として自覚できる一人の人間として、幅広い知識を深め、応答力のある実践力を磨き、豊かな人間性を育む!!</p>
授業	<p>授業の工夫</p> <p>「食のプロフェッショナル」である栄養士および製菓衛生師として、いかなる時でも自信をもって行動するため、かつ新たな壁に対して如何に対処すべきかを自ら考えられる専門低知識を定着させることを念頭に、講義・実習にあたっている。</p> <p>[栄養生理学]</p> <p>文系出身の学生も多数在籍することも鑑みて、敢えて教科書を用いず、完全オリジナルプリントを用いた講義を展開している。学生がプリントの穴埋めをしつつ、栄養素の消化・代謝の経路を軸に解説する形式の講義としている。プリント作成に関しては、カラー図表を多く盛り込むことにより、多くのカタカナ表記の物質名を関連付けて理解し、覚えられるよう配慮している。15コマを内容的に三部構成とし、各構成部の終了とともに小テストを行い、知識の定着促進と2年の12月に実施される「栄養士実力認定試験」に対する早期対策と位置付けている。</p> <p>「栄養生理学」のメインの三部に加え、現代の食のスペシャリストとして、そして管理栄養士資格取得においても必要な知識、例えば食欲の生理的メカニズムやケトン食療法など専門性の高い内容も、卒後のキャリアアップの準備として毎年組み込んでいる。2020年度のこの枠では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の緊迫した社会的状況を鑑みて、ウイルスの生物学的説明から新型コロナウイルス感染症の生物学の講義を行った。これらの知識は、現代で「食と健康」に職業人として関わるであろう本科の学生にとって有意義な知識となる。</p> <p>[栄養と統計]</p> <p>本講義は、高校で「数学Ⅰ」しか触れてこなかった学生にも、統計の基礎が理解でき、栄養士として必要な統計処理のスキルを最終的に習得できるようにPCルームでの実習をベースとした講義としている。しかし、2020年度前期はオンライン開講となってしまったので、より丁寧な説明動画を作成し配信を心掛けている。</p> <p>[情報処理演習Ⅱ]</p> <p>2017年のパティシエコースの卒業生アンケートの「もっとPCスキルをつけておきたかった」という結果から開講した新規講義である。製菓企業での20年以上になる経験を活かして、就職後に役立つビジネスに必要とされるPCスキルやマナーの習得を目的としている。特に、ビジネス・メールにおける言葉遣いや作法を、雛形やメール送付を通じての課題にて習得できるように配慮している。</p>

教育 (つづき)		
2020年4月～2021年3月 (つづき)		
授業	授業の工夫 (つづき)	<p>[栄養生理学実験]</p> <p>後期開催で対面授業での実験となったが、「食感」の変化を感じてもらうため喫食を伴う酵素実験を例年通り行えなくなった。この喫食を伴う実験に代わるものとして、テクスチャーメーターによる食材の硬度測定、すなわち「食感」を数値化する実験手法を導入した。また、昨年度導入した食後血糖値の上昇を簡易測定装置により自己測定する実験も「黙食」を徹底し、継続した。これら最新の科学的分析法を経験する新規実験の導入により、学生に科学的興味の喚起を促し、さらに「食と健康」に関わる専門職の自覚も促す効果は、アンケート内容に確実に顕れた。</p> <p>[フード・サイエンスと健康]</p> <p>基本から最新最先端までの「食と健康」に関する話題を提供し、味覚・嗅覚に関するミニ実験も取り入れ、「既成概念にとらわれない探究心と自ら考えることを本講義を通して教えたい」と赴任当時からの思いから、講義を構築している。</p>
	授業改善のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClassで授業評価アンケートを実施するようになってから、学生からの自由記入意見が増え、満足・不満足に関する理由がより具体的に解るようになった。そして、学生の理科系科目に対する理解度は年々二極化が進行していると思われる。この真摯に受け止め、より平易な言葉を用いた説明や用例に努めるために、概して好評だった授業内容でもより解りやすい説明や図表に出来る余地がないか、毎年更新を心掛けている。 ・最先端の科学情報を扱う「フード・サイエンスと健康」と表計算ソフトExcelを用いた実習ベースの「栄養と統計」をオンラインで行ったため、丁寧に説明資料、動画資料を作り込んだ。また、説明動画では、早口にならないように気を付けて作成した。 ・2020年度で4回目を迎える「栄養と統計」は、授業評価アンケートにおける授業内容の理解度・満足度は、年々向上してきた。これは、毎年の授業評価評価を真摯に受け止め、学生から自由意見を参考に授業構成や課題内容などを見直し続けた結果であろう。しかし、他の教科と比べて、理解度・満足度が低い学生が未みられるので、理数系科目やPCに対する苦手意識を払拭できるきっかけを与えるようにさらに学生に対するアプローチなどを改善していく。

教育 (つづき)		
2020年4月～2021年3月 (つづき)		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	(卒業演習) ジャージーミルクを用いたレシピ開発 ジャージーミルク・牛乳をさらに普及させることを目的として、2017年度牛乳料理コンテスト関東大会最優秀賞を獲得した羽畑ゼミ一期生(2017年度卒業生)考案の「セロリ香る 贅沢!!ミルクらぁめん」を超えるレシピ開発を、学生の独創性を重視して行っている。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	[2020年度] WE LOVE MILK! ～牛乳でつながる世界の輪～ ジャージー牛乳を普及させる～牛乳のうまみと魅力～ サバとミルクの甘い関係 コンテストへの道のり (2020年度牛乳料理コンテスト 山梨県大会優秀賞) ジャージーミルクについて詳しくなろう! 普通牛乳とジャージーミルクの違いって…?
課外活動	特になし。	
2019年3月以前		
主な教育業績	2017年度牛乳料理コンテスト関東大会最優秀賞「セロリ香る 贅沢!!ミルクらぁめん」	

研究		
2020年4月～2021年3月		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
記載事項なし。		
2020年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) Potential Utility of Biased GPCR Signaling for Treatment of Psychiatric Disorders. (共著) <外部リンクあり>	2019	Int J Mol Sci, 20 (13) 2019 Jun 29
(学術論文) Fasiglifam (TAK-875) has dual potentiating mechanisms via Gαq-GPR40/FFAR1 signaling branches on glucose-dependent insulin secretion	2016	Pharma. Res. Per., 4(3), e00237
(学術論文) A Novel Antidiabetic Drug, Fasiglifam/TAK-875, Acts as an Ago-Allosteric Modulator of FFAR1	2013	PLoS ONE, 8(10), e76280
(学術論文) Apelin-transgenic mice exhibit a resistance against diet-induced obesity by increasing vascular mass and mitochondrial biogenesis in skeletal muscle	2011	Biochem. Biophys. Acta, 1810, 853-862
(学術論文) N-Formylated humanin activates both formyl peptide receptor-like 1 and 2	2004	Biochem. Biophys. Res. Commun., 324, 255-261
(学術論文) Characteristics and distribution of endogenous RFamide-related peptide-1	2001	Biochem. Biophys. Acta, 1540, 221-232
(学術論文) Molecular properties of apelin: tissue distribution and receptor binding	2001	Biochem. Biophys. Acta, 1538, 162-171
(学術論文) New neuropeptides containing carboxy-terminal RFamide and their receptor in mammals	2000	Nature Cell Biol., 2, 703-708
(学術論文) Molecular and functional characteristics of APJ - Tissue distribution of mRNA and interaction with the endogenous ligand apelin	2000	J. Biol. Chem., 275, 21061-21067
(学術論文) Apelin, the natural ligand of the orphan receptor APJ, is abundantly secreted in the colostrum	1999	Biochem. Biophys. Acta, 1452, 25-35
(学術論文) Isolation and Characterization of a Novel Endogenous Peptide Ligand for the Human APJ Receptor	1998	Biochem. Biophys. Res. Commun., 251, 471-476
(学術論文) A prolactin-releasing peptide in the brain	1998	Nature, 393, 272-276
(学術論文) 新規 RF アミドペプチド	2004	医学のあゆみ, 210, 250-255

社会貢献	
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等	
2020年4月～2021年3月	
[関連委員会等]	
2020.04-2021.03	家庭料理技能検定会場校責任者（検定試験年間3回）
2020.04-2021.03	笛吹高校連携事業（年間2回）
2020.04-2021.03	キープ協会連携事業（年間1回）
2020.04-2021.03	山梨学院大学実験動物委員会
2020.04-2021.03	山梨学院大学組換えDNA実験委員会
2020.04-2021.03	山梨学院高大連携委員会
[関連行事参加]	
2020.09.02	甲府市連携事業「甲府市食品リスクコミュニケーター養成事業」(~2020.12.16)
2020.10.05	管理栄養士国家試験対策講座「人体の構造と機能」担当(~2021.03.31)
2020.12.04	山梨日日新聞 2021年元旦特集 取材協力
2021.03.06	3大学（法政・明治・関西大学）合同IRフォーラム オンライン参加
2020年3月以前（主なもの）	
2019.09.06	私情協「2019年度 短期大学教育改革 ICT 戦略会議」講師として事例報告
2018.10.31	私立短期大学「教務担当者研修会」講師として事例報告
2018.07.29-08.05	TBS ラジオ「石川實 DAIRY LIFE」出演
受賞 ※個人、所属団体	
農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞（2019年）	
日経BP 技術賞 医療・バイオ部門受賞（1999）「プロラクチン分泌刺激ペプチドの発見」	